

今日の育児不安・育児困難と子育て支援の課題(その1)

櫻谷真理子
(立命館大学)

I 研究目的

近年、母親の育児不安や育児ストレスへの関心が高く、その対応が課題になっている。そこで、家庭における養育の実態を把握し、援助の課題を明らかにすることを目的に調査を行った。

II 研究の方法

1. 対象

保育園（2箇所）と幼稚園（1箇所）を利用している母親と、K市の住民基本台帳から無作為に抽出した0歳から5歳の乳幼児を養育中の母親を対象にした。

2. 方法

保育園、幼稚園を通して協力を依頼、配布し、園で回収した。無作為に抽出した家庭へは郵送による配布、回収を行った。調査時期は、2003年、6月～7月である。595配布し、回収数、回収率は保育園141（70.5%）、幼稚園144（73.8%）、在宅調査60（30.0%）で有効回答数は345であった。

3. 調査の内容

子育てやしつけに関する悩み、子育て意識、親になるまでの子育て体験、子育てのイメージと現実とのギャップ、父親の家事・育児参加と妻たちの評価、母親の生活、子育てと仕事についての考え方など。

III 結果と考察

1. 基本的属性

母親の年齢は30歳代が8割近い。仕事を持つ母親と、在宅の母親の割合は半々である（有職47.0%、育児休業中4.9%、無職47.2%）。父親の年齢は30歳代が約7割である。子どもの数は2人が約5割弱を占めている。対象児の性別は女兒が男児よりやや多かった。対象児の年齢は表1の通りである。

表1 対象児の年齢

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答	無回答
20	64	57	54	68	64	15	9	345(人)
5.8	18.6	16.5	15.7	19.7	18.6	4.3	0.9	100.0 (%)

2. 子どもの理解、子どものしつけから見た支援の課題

赤ちゃんのとき育てにくい特徴を持つ子どもが1割から2割存在することが示唆される結果が得られた。

このような赤ちゃんは特別なニーズを持つ子どもとして理解し、親が疲労困憊しないような支援が必要だといえよう。

子どもの性格では、我が強いと約半数の母親が答えており、子どもの自己主張や自我の発達を否定的に見ていることが懸念される。なお、4人に1人の子どもは、かんしゃく持ち、あるいは神経質であると母親たちは捉えており、こうした見方もまた子どもへの接し方にマイナスの影響を与えることが心配される。

なお、子どもの駄々こねや言うことをきかないときに、厳しく対応する親が多く、しつけに体罰を用いる親も多いことが明らかとなった。子育ての手本を示してくれる人が身近にいないために、葛藤場面で冷静に対応することができずに、力による養育に頼ってしまうことがうかがえる。

3. 母親の育児不安・ストレスと支援の課題

子育てを楽しんでいる母親は7割であった。しかし、その一方では、20人に1人の母親は子育てをどちらかといえば辛く感じると回答している。なお、約7割の母親が子どもといるとイライラしたり、親のストレスを子どもに向けてしまうことがあると答えている。

次に、子育てに疲れるは8割強、時間的ゆとりがほしいは9割強という結果にみるように、育児の疲労感、束縛感に悩む母親が多いことが明らかとなった（表2）。自由時間は専業主母でもわずか2時間という回答が多かった。このことから、親に休息の時間を保証し、負担の軽減を図る支援が必要だといえるだろう。

3. 父親の家事・育児参加の課題

父親たちの家事労働の実態は表3の通りである。また、表4のように父親たちの多くは、子どもの遊び相手はするが、具体的な世話は妻まかせにしている。母親のうち現状に満足している人は3人に1人であり、不満だけど、がまんして自分が引き受けようとしている人が多いことがうかがわれる。夫の長時間労働に加え、妻以上に家事・育児経験の乏しい夫に多くを期待することを諦めているようだが、相談相手として妻たちが求めているのは夫が一番多いという結果も得ており、核家族の中で、子育てにおける父親の役割はますます重要になっている。父親の家事、育児参加を促す

ことが重要な課題として認識される必要がある。

4. 母親のライフスタイルを考えた支援

現在就労していない母親たちのうち、今すぐ働きたい人が20人に1人、3歳になったら働きたい人が10人に1人、小学校へ入学したら働きたい人が4人に1人いることがわかった。多くの人が仕事に就くことを希望していることがわかった。

したがって、仕事へ復帰したいという希望を持つ母親へは準備のための支援が必要になってきている。すなわち、これからの子育て支援は母親のライフスタイルやニーズに合った多様な取り組みが求められており、一人の女性としての生き方や活動を尊重し、その人らしい人生を選んで生きていけるようにサポートする必要があると思われる。

おわりに

子どもの自己主張や自立への欲求を受容することができず、過干渉になったり、厳格なしつけを行う親がいることが把握できた。また、子育ての疲れや精神的なストレスが高じており、親としての自信が持てない人が半数いることがわかった。夫婦で互いに支え合って子育てをすることができないことが母親たちの葛藤を強めていることも推察される。これらのことから、母親の負担や責任の軽減を図ると同時に親の育ちを支え、自信の回復につながるような支援が不可欠になってきているといえよう。なお、より深刻な問題を抱え、自ら支援を求めることができない親に対しては、通常の育児支援の施策だけではなく、児童福祉の専門家による支援を講じていく必要があると思われる。

表2 子育て意識

質問項目/回答(%)	よくある	時々ある	あまりない	全くない	無回答
子育てに疲れたと感じることは?	23.5	58.8	15.9	0.9	0.9
時間的なゆとりがほしい欲しいと思うことは?	47.8	44.1	7	0.3	0.9
育児の心配ごとや悩むことは?	14.2	58.3	25.8	1.7	0
子どもといるとイライラすることは?	9	59.4	27.8	3.5	0.3
子どもがしていることを黙って見ていられないことは?	10.1	52.5	33	3.2	1.2
子どもに十分なことをしてやれないと焦ることは?	15.7	45.8	34.5	4.1	0
子どもを育てることで自分は成長していると感じること	37.7	41.2	20.6	0.6	0
自分は育児にあまりむいていないと感じることは?	8.7	44.9	38.3	7.8	0.3
子どもをかわいくないとか愛せないと思うことは?	1.2	8.1	37.1	53.3	0.3

合計サンプル数=345件(100%)

表3 父の家事労働について

質問項目/回答(%)	常に	時々	たまに	全くしない	無回答
食品の買い物と一緒にいく	9.9	32.2	33.3	9.6	15
食事を作る	2	11	28.7	42.9	15.3
食器洗い・食事の片付け	7.8	15.1	33	28.7	15.3
お風呂の掃除や準備をする	9.6	20.9	29.6	24.3	15.6
ゴミ捨てをする	27	16.5	18.6	22.9	15
部屋の掃除をする	4.6	17.7	28.4	34.2	15
洗濯をする	5.2	10.7	16.5	52.5	15

合計サンプル数=345件(100%)

表4 父の育児参加について

質問項目/回答(%)	常に	時々	たまに	全くしない	無回答
子どもの遊び相手をする	35.4	34.5	15.1	0	15
保育園の送り迎えをする	11.6	11	27.2	24.6	25.5
あなたの外出中に子どもの世話をする	32.5	18.6	28.4	4.3	16.2
子どもの排泄の世話をする(うんち)	16.5	24.1	28.1	15.7	15.6
子どもの排泄の世話をする(おしっこ)	17.4	29	29	8.7	15.9
子どもを風呂に入れる	28.4	37.1	17.1	2	15.3
子どもの着替えを手伝う	16.5	31.6	30.4	6.4	15
子どもに食事を食べさせる	11.3	31	32.5	9.3	15.9
子どもが病気の時に仕事を休んで看病する	1.2	11.6	17.1	53.9	16.2
子どもが泣いたりぐずりしたときあやす	17.4	33.3	28.7	5.5	15

合計サンプル数=345(100%)